ＮＰＯ法人わの会福祉事業所　2025年10月

わの会通信 Vol. 49

2025年10月1日発行　発行元:NPO法人わの会　住所:府中市四谷6-6-1　TEL／FAX:042-360-3626

皆さまお変わりございませんか？わの会スタッフは長引く残暑にも負けずそれぞれの業務に努めております。

また、コロナに苦しんでおられる方々に、心からお見舞いを申し上げます。福祉事業には様々な困難がついてきます。今年もそうですが、みんなで力を合わせて乗り越えられるように皆様のご支援をお願いいたします。

難病ALS30年・わの会理事長　佐々木公一

特定非営利活動法人 **わの会**

府中市四谷6-6-1　TEL:042-360-3626

詳しくは、こちらの
わの会HPへ→

【５つの事業】

①府中自立支援ネットワークわの会(自立支援)
TEL:042-360-3626

②デイサービスりんりん(地域密着型通所介護)
TEL:042-361-6001

③ヘルパーステーションあいあい(訪問介護)
TEL:042-336-7445

④重度訪問介護従業者養成研修講座(研修事業)

⑤わの会相談支援(計画相談事業)TEL:042-319-2688

時代の変化に向かって

NPO法人わの会事務局長　志鎌　哲

昨年11月にNPO法人わの会の事務所が移転し、わの会デイサービスと同じ建物に入りました。デイサービスに通う皆さまの体操の掛け声が今日も聞こえてきますが、そこに加えて自立支援ネットワークわの会の電話も鳴りやみません。人の出入りも多くなりました。四谷6丁目は少しにぎやかになったと思います。住吉町のあいあい事務所はヘルパーさんが集まり会議をすることが増えてきました。介護ソフトのシステム移行をすすめ、リモート会議も当たり前になってきました。わの会の仕事は間断なく動き続けつつも、世の中の動きと共に変化しています。

人は誰もが年を取り病気にもなります。その介護を個人や家族ではなく、社会全体で取り組む「介護の社会化」を目的として介護保険はスタートしました。社会全体で取り組むので障害福祉、介護の仕事は社会保障の一環として国が価格（＝介護報酬）を決めています。しかし、物価の高騰や諸費用の価格上昇に介護報酬は追いついていません。

従業員の昇給も介護報酬本体では対応は難しく、介護福祉の仕事は他業種と比べて年収は低い実態があります。国は処遇改善加算によって昇給に対応する姿勢を見せていますが十分なものではありません。仮に介護報酬が上がったとしても、その財源を国は利用者に求めてくることでしょう。

そして事業者の事務的な負担は増える一方です。現在介護福祉の周辺でみられる変化とは、公の後退と「自分で何とかせよ」という自己責任論により社会保障が削られている状況です。それはさらに加速しているように感じます。そして事あるごとに「生産性の向上」を求めてきます。ロボットを入れよ、AIを入れよ、ICTだ、DXだ（その「補助金」は出す）介護福祉が経済対策に使われている事を強く感じます。

何かを見失っていないか。わの会の仕事を求める利用者様、提供するスタッフが「良かった」と思える事業を継続させるためにわの会は動いていますが、そもそもの「介護福祉の仕事」が今までと違うものに変質していないか。戸惑いを感じます。

迷ったら立ち止まり、振り返る。温故知新の諺もあります。わの会設立から28年、NPOを取得し事業を開始してから22年が経ち、法人として利用者様とスタッフで築き上げてきたものは何かを改めて確認し、次の目標を定めて行きたい。事務局として2025年度は、次のわの会へのステップアップとその目標を見定める年に位置付けたいと思います。

府中自立支援ネットワークわの会第29回会員総会

6月２８日（土）

府中自立支援ネットワークわの会の会員総会が住吉文化センター講堂にて開かれました。（当日参加は25名、葉書、電話での委任は68名）開会に先立ちご挨拶された竹村理事長代行からは29年前に現在のNPO法人わの会の前身である「府中の福祉を考える会」発足当時の佐々木公一理事長の視覚障害の方への心温まるエピソード等も紹介されました。

参加者全員による一言自己紹介では「朝でも昼でも伴です」「真夏でも秋林です」など愉快な紹介に笑い声もあがりました。審議に入り第1号議案から第5号議案まで承認されました。入会2年目の森田恵美子さんが議長を務めてくださり安定感抜群の進行でした。新年度の運営委員8名の方々が承認され新運営委員長には秋林奈津子さんが選任され「若い人たちに頑張っていただき皆さんで盛り上げていきましょう」のご挨拶でした。討論の中では法人共有車ヴォクシーが廃止されることについて多くの関心が集りました。

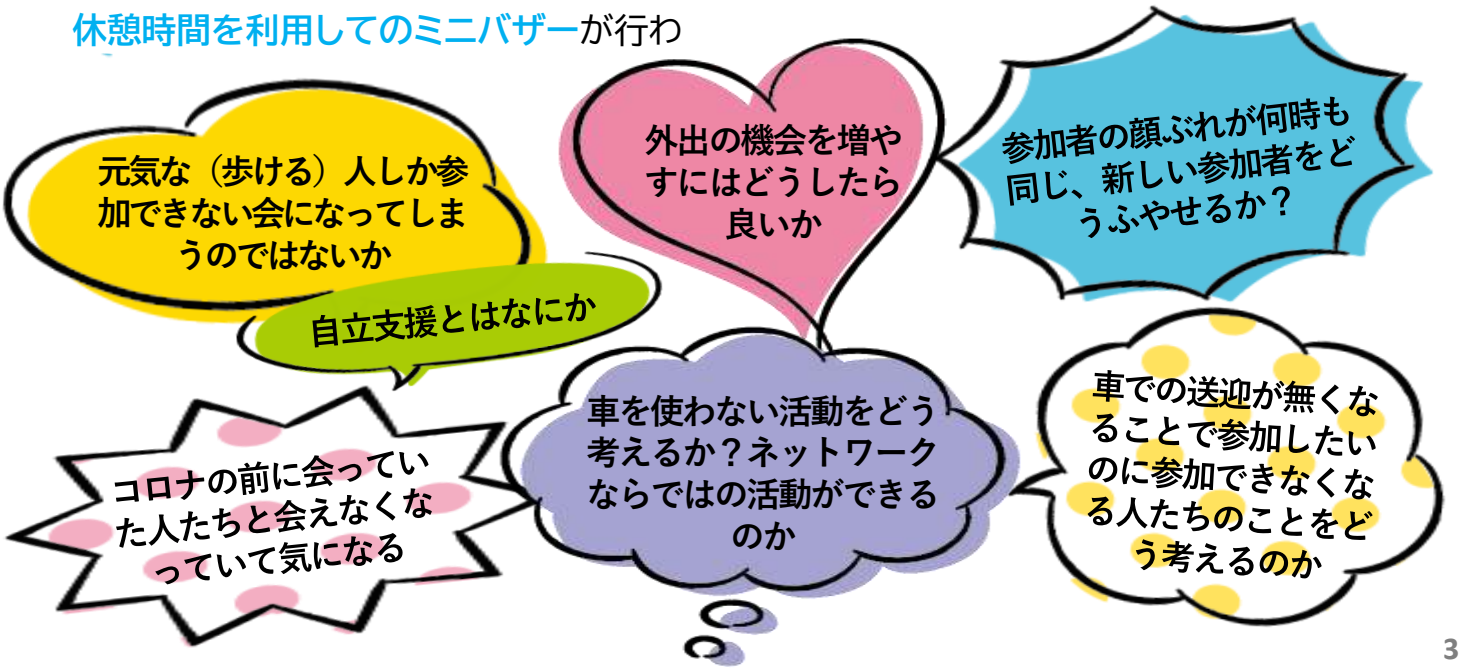
休憩時間を利用してのミニバザーが行われましたが予想を超えての盛り上がりをみせあっという間に10,000円の売り上げとなりました。（物品の提供を頂いた皆様ありがとうございました）

後半の「語る会」は2つのグループに分かれて語り合いました。（下記に記載）

文化センター講堂の貸し出し時間ギリギリまで熱の入った話し合が行われました。

歌う会を予定していたのですが時間切れとなり参加者皆さんでバザー品の残りを腕に抱え慌てて会場の外へ移動し、文化センター玄関前での一本締めで閉会となりました。

この時の様子を後日の運営委員会で思い出して「火事場から逃げてきたみたいだったね」と大笑いになりました。令和7年度は課題も沢山ありますが会員の皆さんの“笑う力”で元気に活動を継続していきましょう！



2025年総会 あいあいより

管理者　津田　久美

◆今年度の課題◆

ヘルパーステーションあいあいは2003年の開業から22年が経ちます。重度訪問介護や同行援護など高い技術を求められるケアを中心に提供し、訪問介護事業所として、ヘルパーと利用者様が良い関係を結びながら現在に至っています。それは同時に、ヘルパーも利用者様も高齢化していると言う事でもあります。

利用者様から見れば、年を重ねる事で病状の進行や身体の変化があり、今までできていたことが難しくなり必要とするケアは増えていきます。付き合いの長い慣れたヘルパーにケアを続けてもらいたい気持ちがありますが、ニーズの中に重度訪問介護や同行援護の資格だけでは対応できないものが増えてきます。ヘルパーからすれば、高齢化で気力や体力が以前のように続かない事もふえてきます。新しいヘルパーを入れるには、そこに対応できるスキルが求められるため資格取得や研修によるスキルアップの仕組みがより求められます。

しかし、ヘルパーの人材難は続いています。求人倍率は14倍と昨年より改善していますが安定した仕事量を提供できる状態や、社会保険加入を条件に組み入れるなどなければ、若い世代の人材確保は難しいと感じます。また、重度訪問介護を担ってきた学生ヘルパーも病院などのアルバイトが増え登録数が減っています。重度訪問介護など長時間の支援が求められる現場の体制の維持が難しくなっています

これらの状況を踏まえ、いよいよヘルパーステーションあいあいも変化の時を迎えていると感じます

◆事業目標と経営目標◆

昨年は常勤職員一名の退職があり、今年度も常勤職員の定年退職が控えています。人員補充が必要です。ヘルパーの増員も図らなければなりませんが、先ずは今ある力を最大限に活用する事と、そのためにも働きやすい職場環境を整える事を目標とします

その上で、年間のサービス提供時間を27000時間として従来と同レベルのサービス提供を目指して行きます。

あいあいブログ

退院の素敵なお祝い

ALS患者のSさんは、4月上旬緊急入院をされました。その後、3週間入院をされ、元気になって退院をされました。

すると、Hヘルパーさんが自作の紙芝居の退院祝いをプレゼント。センス良くなんとも味のあるメッセージと温かい絵の紙芝居は、今Sさんの部屋に飾っています。**- 5月12日の投稿の抜粋**

2025年のりんりんの状況

管理者　森田　恵美

◆事業所のエピソード◆

昨年7月から利用を開始されたAさんは、足の浮腫みが酷く、膝から下を包帯で圧迫しながら通所されていました。また毎回排泄の失敗も見られていましたが、通所2ヶ月程で浮腫みの包帯が無くなり排泄の失敗も減りました。昼食後薬が3錠ありましたが、月が変わる毎に薬が減り今では昼食後薬の処方が無くなりました。通所毎に元気になっているのが目に見えて分かりました。

昨年12月から利用を開始されたBさんは家では寝ているだけで入浴も一年ほどされていない状態でした。ご家族はデイサービスでの入浴を強く希望されていましたが、ご本人の拒否も予測されました。

ご本人の到着からスタッフが横につき、ここが安心できる場所であることを伝え、他の利用者様との交流をされる中で、お願いとして入浴を提案したところ「私にできる事があるのかしら？いいわよ」との返事をいただき、そのまま嫌がる事もなく入浴されました。その後は「お風呂の用意が出来ました」との声掛けで入浴に向かうほどになり、ご家族も送迎のたびに表情が柔和になっているようすが見受けられるようになっています。

◆今年度のケア目標◆

ケアマネージャーやご家族からの要望が多い戸外リハビリの充実をはかります。利用者様の「行ってみたい」「やってみたい」に応える外出行事をご家族も参加できるようにして、利用者ご家族の交流の場を作って行きます。基本に立ち返り、利用ニーズ・身体状況・精神状態など対応方法を改めて職員が学びなおし、利用者様にとって一日を安心して快適に過ごして頂ける環境を作ります。ご家族が日中に休息が取れ、在宅生活が長く続けられるようにします。

職員の外部研修参加で研鑽を重ねます。各々興味のある分野を掘り下げ、新しい知識を獲得し、各スタッフへ伝達する事で全員が知識を深め介護実践に繋がるようにします。スタッフの研修とスキルアップに力を入れます。現在勤務している介護スタッフがより良いケアを目指せるよう確認を行い、ひとりひとりのスタッフが力を発揮できるよう、目標を定めたスキルアップを行います。

深大寺そばツアー

7月１５日（火）前の週からメニューを決め、楽しみにしていた深大寺そばツアーに行ってきました😊
今回も利用者様のご家族が参加してくださいました。当日は天気が崩れやすく小雨が降ったり止んだりする中、傘を沢山車に積み込み「雨が降ったらお蕎麦を食べて帰って来ましょうね」と朝の会を済ませ車に乗り込みました。

- 7月19日の投稿の抜粋

6月の戸外活動

暑さも尋常ではなく、りんりんの特色でもある『戸外リハビリ』を毎日実施する事は難しくなりました。利用者様の体調・体力、外気温や暑さ指数を鑑みながら実施しています。６月は、府中郷土の森公園、憩いの森公園、府中競馬場、町田市薬師池公園、町田市野津田公園、日野市民の森スポーツ公園　などに足を伸ばしました。

- 7月2日の投稿の抜粋

りんりんブログ更新中

デイサービスりんりんでは、利用者さんたちの日常の様子をブログで配信中です。月に数回更新を目指し投稿しています。是非、ご覧ください！　☞QRコードを読み込んでください。

申し込み受付中

重度訪問介護従事者養成研修

第3回 2025年10月26日/11月2日(日)
第4回 2026年1月25日/2月1日(日)

↑コミュニケーション技術

← 肢体不自由者の介護演習

※受講料、スケジュールの詳しい内容はコチラから→

相談支援の役割とは

相談員　志鎌　哲

◆相談◆

相談支援専門員は資格として実務経験3～10年と相談支援従事者初任者研修の修了が求められますが、それに見合った給料を支払えるだけの介護報酬があるかと言えば難しいと言わざるを得ません。利益を上げるには相談員を多く配置して精神障害や行動障害、医療的ケアに対応できる事業所加算を大きくし、会議等への積極的な参加、医療や介護保険との連携による個別の加算を増やした上でケースを多く受け持つ(相談員ひとりあたり35人まで。それ以上は減算)事が求められます。

今期、わの会は法人の方針として各事業の黒字化を掲げました。計画相談が今以上の収益を上げるには相談員の確保と育成、同時に利用者を増やす必要があります。そのためには年単位の時間がかかるため長期目標の設定が求められます。相談支援専門員は不足しており、介護保険のケアマネージャーよりマイナーな存在です。有資格者の求人応募は稀であると言わざるを得ません。黒字化の現実的な路線は現在の体制で利用者を増やしてゆく事です。

現在、わの会相談支援は少しずつではありますが新規利用者の受け入れを再開しました。事務的な改善点として、記録の入力に音声入力を活用し時間の短縮を図っています。しかし、一番大事にしたいのは相談に来る皆さんの話をしっかり聞く事です。

◆来年度目標◆

事業目標

経営の黒字化とわの会相談支援の継続

経営目標

ひと月あたり29件の計画相談を受ける

◆課題◆

現在の登録者数は80名であるが上記目標を達成するには、新規利用者を獲得しなければならない。現在の体制でどれだけ利用者を増やせるかを考えていきたいと思います。

相談事例

♠放課後等デイサービスを複数利用したい。

♦重度の行動障害があるがアパートで一人暮らしをしたい。自立生活のプランは立てられるか。

♠難病で施設に入所しているが、福祉サービスを使って外出し社会と接点をもちたい。

♦親と同居しているが、独立の足掛かりをつくりたい。作業所に通う他、ショートステイを利用できないか。

♠オープンで就労したが職場での不安が強い。就労定着支援と言うサービスが使えると聞いたのでプランを作ってほしい。

♦身寄りのない人のグループホーム利用プランを作ってほしい。

♠一人暮らしだが精神障害があって不安で仕方がない。

♦療育センターに入所している方のプランを作ってほしい。

どれも、その人だけ、計画相談だけで解決できるものはありません。様々な福祉サービスがつながって、ネットワークされていく中で解決の方向性を探っていくことができるプランを、話を聞きながら作って行く事が求められます。

生き生き人

No.9

音楽のある生活…仕事であり趣味

村口　洋子（大正琴教室・楽しく歌う会の先生）

わの会の前身の“西府 結の家”の歌と大正琴の指導のボランティアにきてくださった縁から約30年。今も変わらず府中自立支援ネットワークわの会で「大正琴教室・楽しく歌う会」で月2回指導してくださっています。

今年82歳今でも元気で若々しい先生にお話を聞きました。

わの会との出会いは？

社会福祉協議会で歌指導の募集を知って、“西府結の家”で歌と大正琴を教えるボランティアを始めました。佐々木理事がまだ元気な時で、村口という名前から夫の仕事上の知り合いだったとわかり、さらに縁を感じました。

約30年振り替えてみて

わの会の他“デイサービスりんりん”でも教えています。わの会の利用者さんのお宅に集まって教えたこともありました。「本人が楽しく歌えばよい」がモットー。折角の練習時間を楽しんで欲しいと、懐かしい歌、今風な歌、外国の歌とか歌っています（大正琴も）。そして、12月府中市が開催する“ワイワイフェスティバル”の出演しています。楽しく歌いながらも目標をもってやれる…いいバランスだと思います。

先生の生い立ちは？

両親は秋田出身、3人兄弟の函館生まれ。父は船舶のサルベージ（船の救出）をしており、6年生の時、父の転勤で月島に引越しました。

私は覚えていないのですが、小さい頃から箱を台にしてよく歌っていたそうです。9歳から叔母にピアノを習いはじめ、先生の勧めで（現）東邦音楽大学附属東邦高等学校の声楽科へ、そしてそのまま短大へ。祖父と叔父は能の謡（うたい）でもあり、音楽が身近であり、自然な流れで音楽の道に進みました。卒業後、河合音楽教室でピアノの先生になり、子育てで10年ほど休職、復帰し60歳定年まで教えました。

府中は、短大生の時、両親が関西に転勤になって住みました。夫との馴れ初めは帰省帰りの夜行電車の中。混雑する電車の中で席を譲りあったのが、京都の実家から帰る美大学生（夫）でした。彼は吉祥寺、私は小金井に住んでいたので一緒に吉祥寺まで帰り、連絡先交換したもののそのまま会うことなく…友達が絵をやっている人を探していたことで再び縁ができ交際がスタート、結婚に至りました。結婚後も府中市に住み3人の子供に恵まれ、小金井市、国分寺市など引越しましたが、母親が70歳の時、両親との同居をきっかけに府中市に戻ってきました。

母はその後デイサービスりんりんで104歳でなくなる間際まで通いました。わの会で歌を教える時に人見知りの母を一緒連れて交流したのがきっかけで…本当にお世話になりました。

健康の秘訣は

歩くことかな～昨年他界した夫がスケッチをしに山登りしていたので一緒に行きました。最近の猛暑で夏は難しいですが、自宅から最寄り駅まで歩いたり、ぶらぶら散歩しています。中河原駅からりんりんまでも歩くこともあります。

趣味は？

音楽（仕事）！退職後も、“朗読友の会”の朗読では声を生かし、立川合唱団に所属していた時は合唱だけでなくオペラをしたり、ウィーンで披露した経験は思い出深かったです。教会で「メサイヤ」も歌いました。現在も、ピアノ、歌、大正琴など、わの会の他、国立、府中、自宅で教えています。それが生活にメリハリを与えてくれます。

わの会の皆さんに対して一言

穏やかでいい所。だからこんなに長く続けられているのだと思います。